

事務部会

研究主題 各校の実践に学び事務処理能力の向上を目指す

1 主題について

各校で取り組んでいる『日常業務』について、そこから互いに学び合うことで、今後の事務処理能力の向上につなげる。

2 今年度の取組

月 日	実践内容	月 日	実践内容
4月11日	第1回総合研究会 研究主題設定・年間計画作成	11月12日	第2回総合研究会事務部会

3 研究内容

一人一研究

・期 日 平成25年11月12日（火） ・会 場 大館市交流センター

【主な協議内容】

- ・他県との人事交流（転出・転入）が行われている昨今、給与・旅費・諸手当支給等の事務処理については十分留意する必要がある。相手県との「派遣に関する協定書」によりその取扱いが違ってくるため、その都度、確認と事例の共有に努めたい。
- ・扶養手当の認定（継続認定）では、ケースにもよるが扶養の実態（事実）証明が求められることを学んだ。特に父母の認定等、ますます高齢化社会が進む秋田県においては、十分な確認が必要となってくることが予想される。
- ・赴任旅費や中央研修旅費、非常勤講師等の勤務状況報告に係るシステム入力等、初めてまたは数年ぶりの処理となる場合もあるため、留意点を共有しておきたい。
- ・校外学習等での高速道路利用における現地経費支給、育児休業期間中の住所変更に伴う通勤手当（通勤届）の処理事例も大変参考になった。教員の事務負担軽減への取組やふるさとキャリア教育への事務職員としての関わりも自校の参考としていきたい。
- ・選手派遣費補助金要綱等改正への対応、大量の油類を所蔵している施設の点検記録等も整えておきたい。日常の事務処理、運営を通して「判断力」も求められる。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・一人一研究により、各自が自校や全体の課題に向き合うことができた。
- ・一人一人がテーマを設定したことから、様々な分野の事例、実践、情報が共有され、個々のスキルアップにつながった。

(2) 課題

- ・いろいろな問題を一人で抱え込まないように、組織としてどう対応していくか。
- ・今回の研究発表以外の実践や知識、経験をどう共有していくか。



【事務部会 様子①】



【事務部会 様子②】